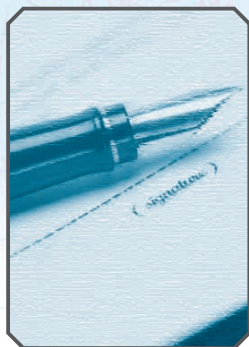


特集

大学教育の質保証



編集にあたって

掛下 哲郎 佐賀大学

情報技術（IT）はあらゆる経済活動や社会生活にとって不可欠なインフラである。国勢調査を見ると、1985年に32.1万人だった情報技術者は、2005年には82万人に増加した。IPA（情報処理推進機構）の推計によると2010年度のIT人材総数は101.8万人に達する。しかし、高度IT人材の不足は常態化している。また、受託開発型ビジネスからサービス提供型のビジネスへの転換も進みつつある。ソフトウェアのオフショア開発も普及している。こうした状況を考えると、新たなニーズに対応するだけでなく、価値を創造できる高度な情報系人材の育成が急務であることは論を俟たない。

一方、21世紀に入ってから、大学では教育改革

が進んでいる。各種の大学評価（認証評価や法人評価等）への対応も始まった。その背景には大学卒業生・大学院修了者の能力に対する社会的な関心が高まっていることや、高等教育におけるグローバル化の進展があり、文部科学省も大学教育の質保証を推進している。最近の取り組みとしては、千葉大学を中心とする「技術者教育に関する分野別の到達目標の設定に関する調査研究」がある。

JABEE（日本技術者教育認定機構）はアクレディテーション活動を通じて理工系分野の大学における専門別の質保証に取り組んでいる。これは、ISO 9001（品質マネジメントシステム）の大学版ともいべき取り組みである。情報処理学会もJABEE

1. 高等教育の質の保証・向上に関する文部科学省の取り組み
2. 技術者教育に関する分野別の到達目標の設定に関する調査研究
3. 技術者教育の質保証に向けた JABEE の取り組みとその意義
4. JABEE 審査の話：産業界の視点から
5. 静岡大学情報学部の取り組み—特色 GP に採択された 1 学部 2 学科 3 プログラム制—
6. 佐賀大学 JABEE 認定プログラムの取り組み—系統的な教育プログラム構築と教員間の連携促進—
7. 大分大学の取り組み— JABEE 認定更新と教育改善：ソウル協定対応プログラム認定に向けて—
8. 産学連携実践教育「プロジェクトベース設計演習」の取り組み
9. 香川大学の取り組み—多様な分野の融合型プログラム—
10. 文系学部設置された情報専門学科における情報システム分野の人材育成

に協力してアクレディテーション審査を行っているが、情報分野だけでも約 30 の認定プログラムがある。認定プログラムの修了者は技術士第一次試験の合格者として認められ、将来的に技術士（情報工学）の資格を取得して高度な情報系人材になることが期待されている。

その一方で、JABEE に関してはさまざまな誤解も多く聞かれる。よく耳にするのは「JABEE は最低レベルだけを問題にしている、高度な人材育成には取り組んでいない」「JABEE 基準に対応すると、教育機関の独自性が失われる」といった種類の批判である。そうした批判が聞かれるのは、JABEE 認定プログラムの取り組みが産業界にはあまり知られていないことや、評価に対する当事者のアレルギー反応といった側面もあると考えられる。各プログラムでは、それぞれの特色を活かした多様な教育を自主的に行っている。教員が教育に注力することはもちろん、学生も膨大なエネルギーを注いで勉学に励んで

おり、さまざまな成果も得られている。

現状の JABEE の取り組みにも課題はあるが、批判だけに終始するのではなく、問題を解決する方向で産学官の関係者が協力することが、高度な情報系人材の育成を加速するためにも重要かつ建設的だと考えられる。

本特集では、大学教育の質保証に関する政府や JABEE の取り組み、産業界の視点からの意見、さまざまな JABEE 認定プログラムの取り組みを包括的に紹介する。プログラムを選ぶ際には、教育内容や特色、国立・私立の区別や地域性等も考慮した。

本特集は、本誌の教育コーナー「ぺた語義」と連携している。2011 年 11 月号以降、情報処理学会のアクレディテーション活動、情報工学部門の技術士、愛媛大学や IT 専門職大学院の取り組みに関する記事等を掲載しているのので、併せて読んでいただくと、より理解が深まるだろう。

(2012 年 5 月 1 日受付)